

経営比較分析表（令和5年度決算）

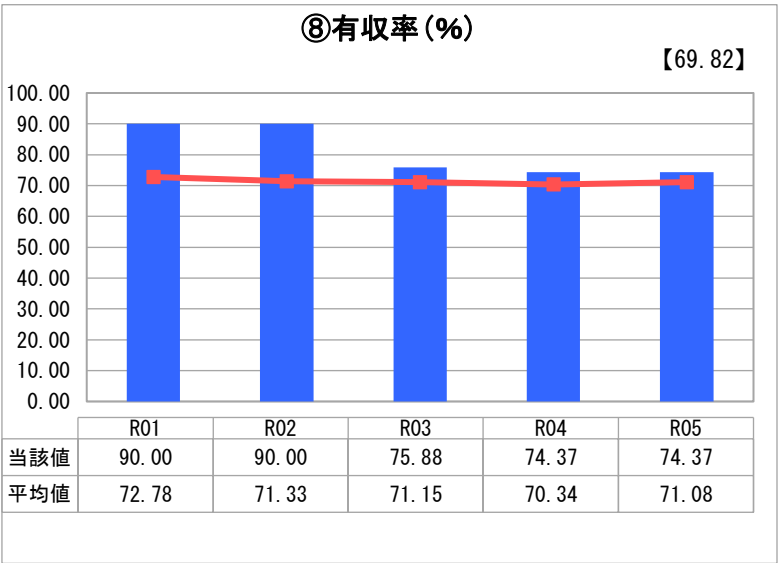
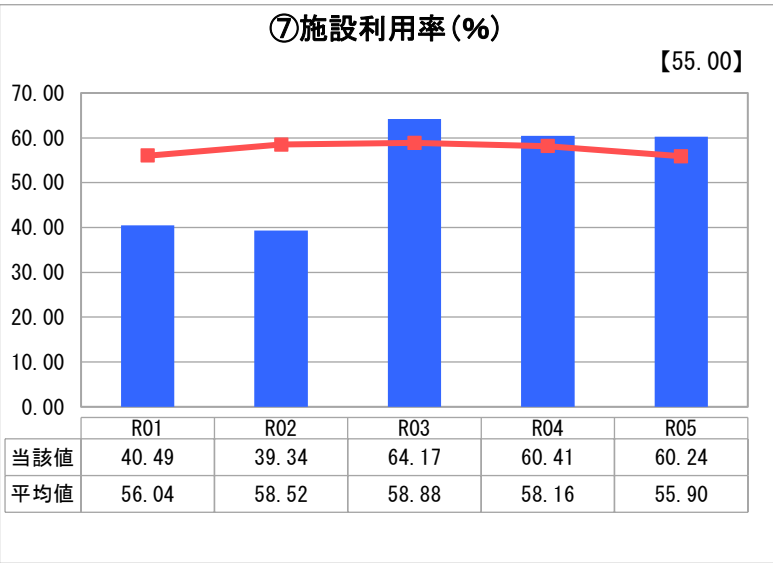
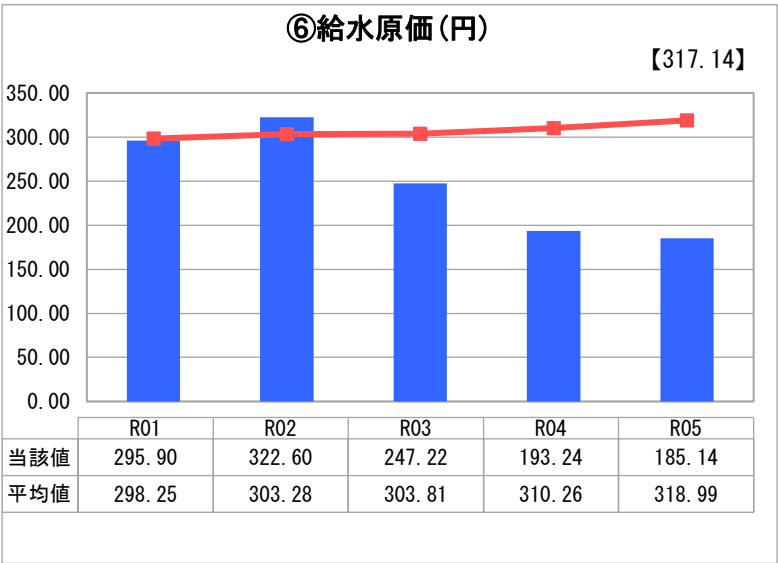
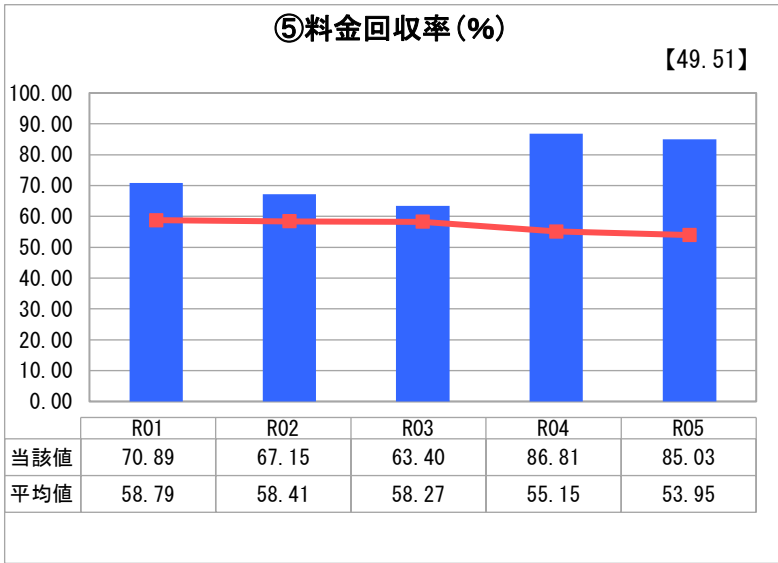
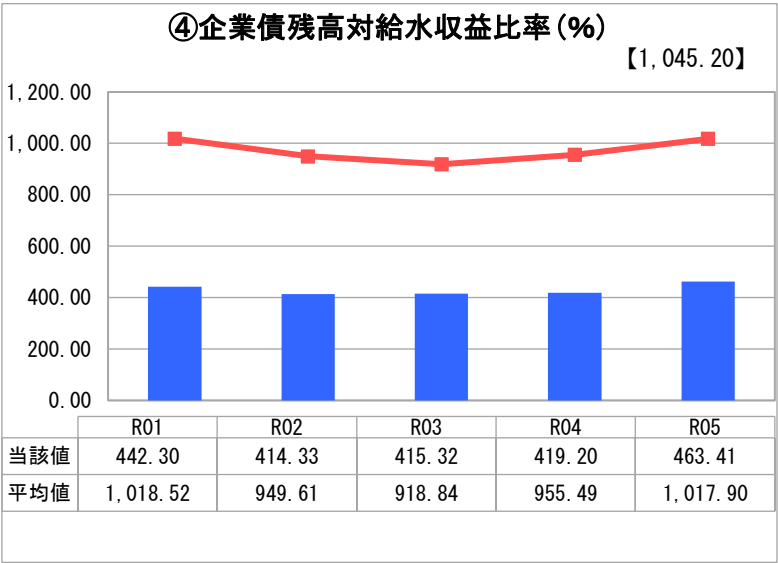
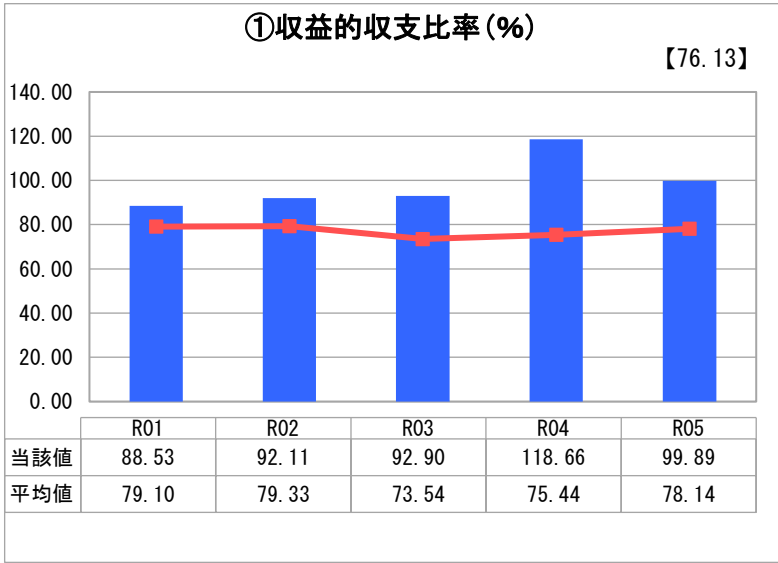
宮崎県 日之影町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	73.92	3,146	

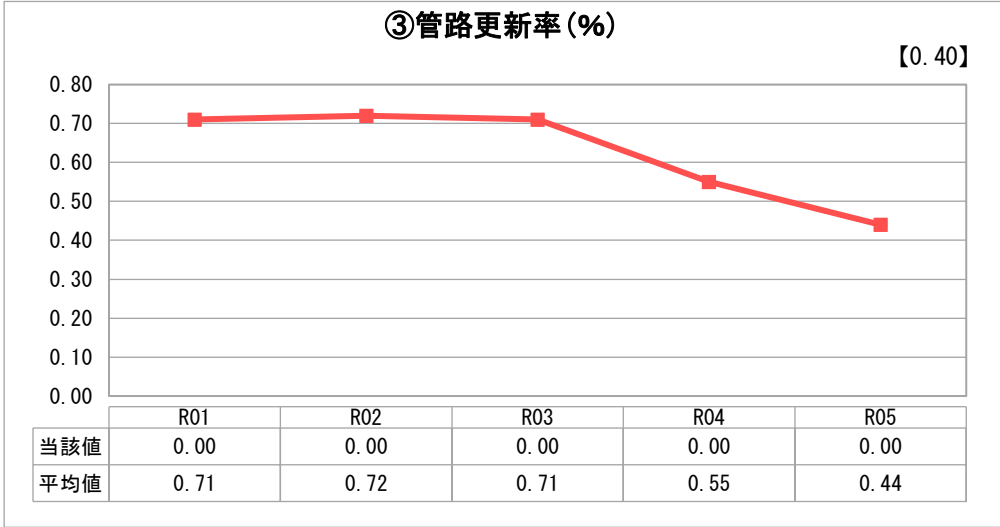
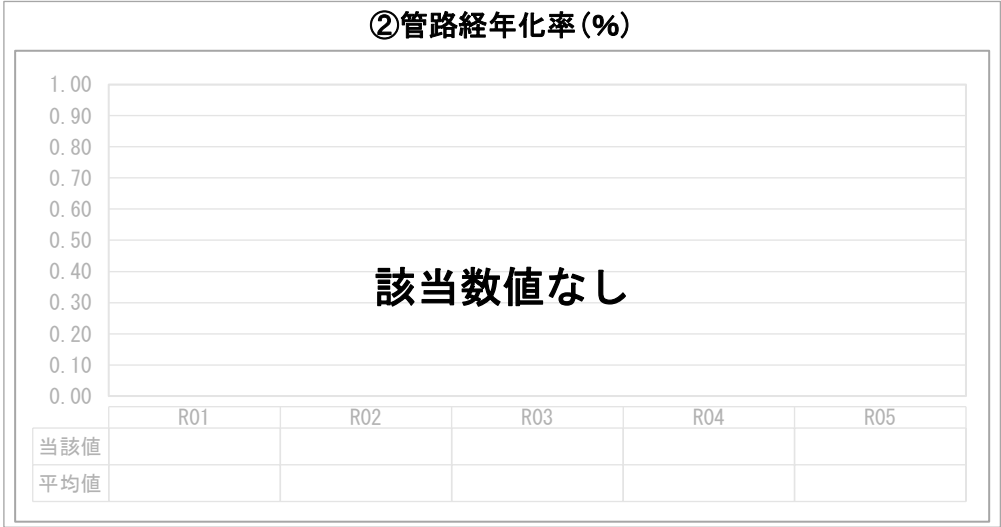
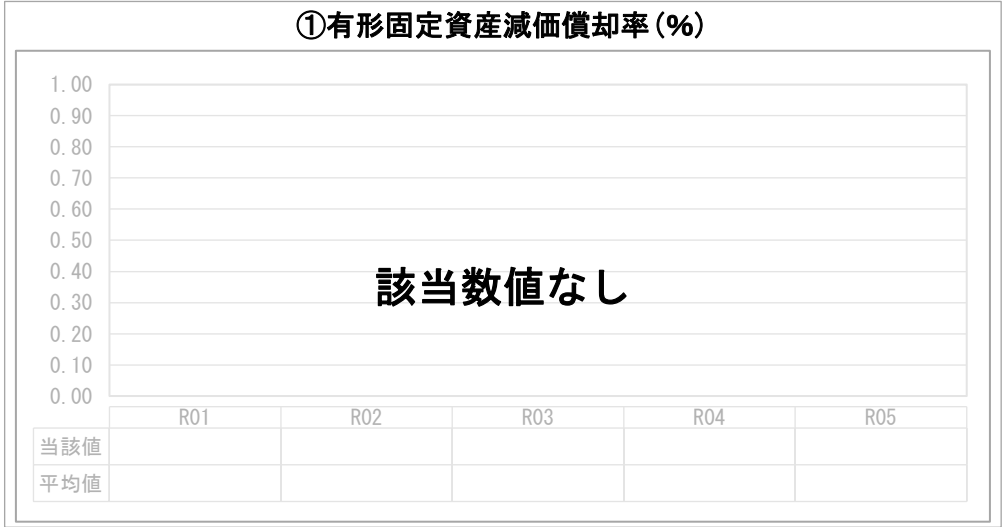
人口（人）	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,485	277.67	12.55
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,610	0.48	5,437.50

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、例年１００％前後の水準が続いており、依然として繰入金に頼る経営状況となっており、今後も経費削減等に努めながら、より有効な経営改善を図る。

企業債残高対給水収益比率は、全国平均を下回ってはいるものの、起債発行により高い比率となっている。

料金回収率は、例年に比べ高い数値であり、引き続き回収率の向上に努めていく。

給水原価は、前年度に比べて低下したものの、施設の老朽化による維持管理費の増加や、それに伴う起債償還金の高額化が見込まれることから、効率的な投資計画を立てる必要がある。

施設利用率は、近年高い数値が続いているが小規模水道事業体であることや過疎化等による利用率の低下は今後の課題である。

有収率は、近年の自然災害により漏水や断水によって、依然と比べると減少しているものの、早急な復旧活動や定期的なメーター確認により全国平均の基準まで維持している。

2. 老朽化の状況について

浄水施設は、更新やメンテナンスを併せて維持管理しており、概ね問題なく運転ができている。

管路更新は、道路改良工事や漏水修理等に併せて修繕等を行いながら管路の維持を行っているが、布設替等の大規模な管路更新については行っていないため０となっている。

設備更新とも併せながら耐用年数の状況等を把握したうえで更新計画を策定し、有効な補助事業等を活用しながら、緊急性・必要性の高い箇所から更新を行う必要がある。

全体総括

少子高齢化や都市部への人口流出による料金収入の減少や施設の老朽化による更新費用等の増加が見込まれ、それに伴う一般会計からの繰入金や新たな起債発行の増加が懸念される。

また、既設設備等の維持修繕に追われる中で、管路や設備の更新費用をしっかりと捻出していくことも本町の課題である。

水道事業経営を続けていくことは困難であることが予想されるが、施設の状態や経営状況を見定めながら、将来的には適正な水準に水道料金を設定した上で、計画的な更新を行っていく事業運営に努めたい。